

2010年度オープンカレッジ秋学期開講科目簡易ガイド

このガイドは2010年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、必ずエクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学ホームページのシラバスをご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	コード	科目名	曜日・時限	担当者	ガイド	
機械・電気・電子・建築・土木・化学・情報処理	1	環境工学	月5・6	笠原 三紀夫	大気圏を中心に各種環境問題について、その原因、現象、問題点、対策等について解説し、それらの概要を理解することを目標とする。	
	2		池田 龍一	実社会における環境保全の意味とそれを実現するための諸条件を習得する。		
	3	半導体工学	月5・6	後藤 英雄	家電製品、表示装置、計算機、制御装置、通信分野等で幅広く利用されている半導体素子の動作原理と特徴について理解する。	
	4	通信方式	火5・6	太田 健次	『電子回路基礎』、『アナログ電子回路』を基礎科目として、変調の必要性や復調の原理など。	
	5	建築と社会B	金5・6	稲川 直樹 片岡 靖夫 松山 明	社会・歴史・地域・歴史・資源、と建築の関係、あるいは各時代の社会に存在する固有の問題を、3人の専任教員と2人の特別講師(溝口正人 名古屋市立大学大学院准教授、小松幸平 京都大学教授)がオムニバス形式でそれぞれの研究成果をもとにして論じる。	
	6	基礎有機化学	金5・6	盛 秀彦	メタンにはじまる数々の有機化合物の物質名および反応を体系的に把握し、脂肪族化合物の基礎的な反応など。	
	7	一般化学B	木3・4	安藤 文雄	化学の基本となる原子や分子の構造、電子の挙動、化学結合など、化学系科目の履修に必要な基礎的概念を理解し修得する。	
	8	図形処理	水3・4	石鍋 雅夫	製造技術としての3次元CADの位置づけ、役割を理解。『SOLIDWORKS』を利用し、CADの基本操作、作図、作品創作、発表などを行う。	
	9		水5・6			
自然科学	10	線形代数	火5・6	奥村 吉孝	線形代数Iで習った行列とベクトルの理解を深め、さらに進んだ応用問題をとりあつかう。2、3次の行列の固有値問題を解き、行列の固有値問題を利用して応用問題を解く、ベクトルの内積・外積の計算とその応用、線形写像の意味の理解など。	
	11	物理学D	火3・4	宮島 佐介	現代物理学といわれる相対性理論や量子力学、又この基礎的な理論に基づいて原子・分子の諸性質、物質の物性、宇宙における現象等をあつかう学問について講義する。	
経済・経営・商業・情報	12	日本経済入門	月5・6	石田 昌夫	主としてマクロの分野を中心に学習する。経済分析に数学がいかに深く関わっているかを理解し、自分でも使いこなせるようにする。	
	13	財政学	月1・2	石田 昌夫	政府行動のうち、歳入面に重点を置いた学習を行う。歳入の内訳は租税と公債であり、この両者の特長と相異、経済への影響について学ぶ。数学(とくに微分法)を多用する。また、『経済原論』、『日本経済入門』によって得た経済学の基礎理論を用いる。	
	14	環境マネジメントシステム	金3・4	伊藤 佳世	製品間の互換性確保や製品の品質維持、生産効率の向上など各種製品の製造において大切な役割を果たし、環境問題や高齢化社会・消費者保護など社会の新しい動向・ニーズに対応していく手段として、標準化について学習する。	
	15	キャリア開発	金3・4	大津 誠	キャリア開発の諸理論、および種々のキャリア選択肢の現状・将来の見通しについて学び、自己のキャリアを選択・開発するのに必要な知識・能力を身につける。	
	16	組織とマネジメント	木3・4	辻村 宏和	組織づくりのソフト面(組織過程論)を扱う。ハード面(組織設計論)以上にソフト面のトラブルの怖さを現実即して説明する。キーワードは社長権威・経営者交代・ワンマン経営・院政など。	
	17	経済学入門B	木3・4	土屋 大二郎	経済社会の諸問題を把握し、社会の様々な事象を経済の側面から考え、経済社会の仕組みやマクロ経済の動向を理解する。	
	18		木5・6			
	19	組織行動論	月3・4	寺澤 朝子	組織の中の人間行動、組織をつくっていくプロセス、組織が存続する為に必要な資源の獲得をネットワークの観点から考える。生き残りのための組織変革の考え方も紹介する。	
	20	簿記原理	金1・2	仁川 栄寿	『入門簿記』で習得した知識を前提に、簿記の基本的原理を取り上げる。企業の財務情報を収集・処理し、またこれらの財務情報を報告する方法など。	
	21		金3・4			
	22		金1・2	阿部 仁		『入門簿記』の後続科目。企業の財政状態(資産、負債)や経営成績など、財務諸表を理解できることを目標とする。
	23		金3・4			
24	株式会社社会計論	火1・2	仁川 栄寿	『入門簿記』、『簿記原理』および『上級簿記論』で習得した知識を前提として、株式会社の財務情報を収集・処理し、これらの財務情報を報告する方法など。		

このガイドは2010年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、必ずエクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学ホームページのシラバスをご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	コード	科目名	曜日・時限	担当者	ガイド
経済・経営・商業・情報	25	グローバルビジネス	木1・2	咸 惠善	国際経営・グローバル経営の担い手である多国籍企業に関連する諸問題を検討することにより、多国籍企業の本質を明らかにする。
	26	人材戦略論	火7・8	咸 惠善	グローバル競争の激化のなかで、日本企業の人的資源管理について戦略的視点がより必要とされている。人的資源マネジメント(春学期)の授業内容を踏まえ、人的資源管理を戦略的視点から考察する。
	27	現代市民法	木3・4	牧野 英克	主要な人生の節目や日常の市民生活(隣人関係、契約行為、財産の取得、環境問題、司法参加等)に焦点をあてながら、関係する各種の法律(憲法・民法・会社法・刑法・訴訟法・行政法等)の基礎など。
	28		水1・2		
	29	流通論	月3・4	三木 國愛	現代の『流通と商業』の現状と理論についての専門的理解を深める。加えて、日本の流通システムの課題と変革の方向を経営的立場から示すことを目指す。
	30		水5・6		
	31	広告論	火1・2	三木 國愛	インターネットや携帯電話の「ネット広告」など、「新時代」における広告コミュニケーションと広告ビジネスの全体像の体系的学習を目指す。
	32	経営戦略論	月7・8	三木 國愛	成功をもたらす戦略ではなく、ビジネスのダイナミズム(経営環境の変化と企業行動)を不確実性への「戦略」の立案・実行・浸透のプロセスとして捉え、企業成長と経営革新のための考え方について。
	33		木3・4	森岡 孝文	資源ベースに基づいた企業戦略の策定・実行の両面について理論と実践の視点から企業戦略を分析する。
	34	ベンチャービジネス	月3・4	森岡 孝文	ベンチャービジネスの内容を学習理解し、ベンチャービジネスの担い手としての重要な意思決定を行えるような分析能力、ビジネスプランの作成、アイデアをビジネス化する経営能力を身に付ける。
	35	産業経済論	水1・2	山口 直樹	産業分析の基本について学習した上で、産業組織論(一つの市場を取り出して分析)および産業構造論(一国のすべての産業の全体としての構造や関係)のトピックの中から、重要と思われるものを取り上げ、講義する。
	36		木5・6		
	37	国際経済学	金3・4	山口 直樹	国際貿易と国際金融の理論と現実を扱う。国際貿易の経済理論的な側面など。
	38	生産管理入門	月5・6	山下 裕丈	「ものづくり」とそれを支える管理技術を通じて、我が国の経済を支える中核的産業である製造業の仕組みと役割など。
	39	情報基礎数学	金5・6	浅野 寿朗	計算機科学の理解に必要な数学上の基礎知識。計算機科学に特有の論理等を扱う、いわゆる離散数学の基礎など。
	40	ネットワーク・プログラミング	金7・8	浅野 寿朗	仕様書に基づいたWebページ制作を正しい理解のもとに行うことができるようにする。また、高度なCSSレイアウトを駆使し、Webサイトのページデザインを行うことができるようにする。 各自PC持参。
	41	現代企業論	火3・4	大島 俊一	21世紀を迎えたわが国の企業社会の実勢と進展著しい情報・金融・物流分野の動向を中心として、それらがどのようにわが国の社会資本整備事業と関連しているかを明らかにする。
	42		木5・6		
	43	特別講義B	火5・6	大島 俊一	21世紀の日本と世界の見方、及び世界と自分史との係わりを深める。6名の外部講師を招き、講義と質疑応答形式での講義形態。
	44	原価計算論	水1・2	竹森 一正	工業簿記の知識から原価計算への上級知識を得る。製品の原価を目的とした総合原価計算から始めて、標準原価計算まで進める。
45	火7・8		山北 晴雄	実際原価計算(主に総合原価計算)および標準原価計算ができるようになるとともに、その理論的背景について理解する。	
46	会計情報システム論	月7・8	竹森 一正	工業簿記論・原価計算論・管理会計論ABで得た知識や計算方法に基づいて、エクセルでの展開を習得する。また、ワードでの数式表記の方法も習得する。	
47	管理会計論B	月5・6	竹森 一正	管理会計論Aで学んだ知識を踏まえて、経営者や管理者のさまざまな意思決定に必要な管理会計の基本的な技法を練習問題を解きながら理解する。毎回、計算演習が入るので、電卓を持参する。	

このガイドは2010年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、必ずエクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学ホームページのシラバスをご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	コード	科目名	曜日・時限	担当者	ガイド
国際関係・異文化・宗教	48	法学概論	木1・2	加々美 康彦	憲法、民法、刑法など主要な法律について、その基本的な「考え方」を学んでいく。
	49	国際政治史	火5・6	羽後 静子	同盟の形成と対立、資本主義と社会主義・ファシズム、民族解放と民族自決、軍備拡張競争と軍備縮小 という視点から、20世紀国際政治史を概説する。
	50	制度経済学	水5・6	原田 太津男	「企業の社会的責任」と「社会起業家」をテーマとし、企業の社会的責任を問う仕組み、企業活動を支援する仕組みの紹介。また、フェアトレード、環境・福祉・教育ビジネス、国際協力といった分野で新たな起業の可能性を切り開く社会起業家について。
	51	国際経済史	月7・8	高 英求	国際経済史に関する基礎的な知識を習得すること、さらに専門的な本・論文を理解する土台をつくるのが目標とする。
	52	NGO/NPO論	火3・4	野田 真里	「市民社会の台頭 - 21世紀社会の新しい担い手の課題と可能性を探る」をテーマに非政府組織(NGO)非営利組織(NPO)の理論と実践について検討し、「地球規模で考え、地域で行動する」地球市民としての能力を育成する。
	53	地域開発論	月5・6	羅 立新	現実をふまえて地方財政の現状、問題点、改革の方向を検討し、地方財政の役割、国との財政関係、予算、地方税、地方交付税交付金、地方債など地方財政の制度と特徴のほか、分権化、少子高齢化、過疎化、国際化といった新課題への対応策についても考察する。
	54	環境論	火3・4	鶴野 公郎	マルチメディア・コンテンツ(ビデオ・DVDなど)で、多くのフィールドワーク例を視聴し、履修者各自が感想・論点などをメモし、その上でグループ討論をおこなう。「環境」を学び、情報発信能力を身につける。
	55	国際金融論	木5・6	高 英求	国際金融に関する基礎的な用語・概念を、ひとつおろし学ぶ。「国際関係論」「国際経済学」などの基礎知識を土台にする。
	56	計量経済学	木1・2	戸田 優男	社会・経済・文化現象の数量分析を主題とし、量的のみならず「質的」データをどのように計量モデル化していったらよいかについて、統計解析や数理経済学の基礎をふまえて、理論的かつ実証的に検討を加える。
	57	ジェンダーと開発	金1・2	羽後 静子	「開発と女性(WID)」と「ジェンダーと開発(GAD)」の2つの理論的、政策的違いを比較検討することを中心に見る。
	58	ガバナンスと開発	木3・4	羅 立新	従来ガバナンス議論を再検討し、開発協力・援助に当たって、政治・行政・財政・市場などの制度相互間関係と組織の役割について、複眼的視点から現状分析、実証分析を提示する。
	59	東アジアを知るB	金3・4	澁谷 鎮明	東アジアの自然・歴史・社会・文化についての基礎的な知識を、日本との関わりや類似点に注意を払いつつ習得する。自然環境、歴史、社会、宗教・民俗宗教と、これらに関わる時事的な問題に関して、朝鮮半島(特に韓国)、台湾の事例を中心にしながら、日本とも比較しつつ講義を進める。
	60	アフリカを知る	木5・6	青木 澄夫	日本とアフリカの関係・交流・協力の歴史をたどりながら、日本人のアフリカ観やアフリカ人の日本観を学習。テーマは「アフリカは遠いか?」
	61	中東を知る	水3・4	堀内 勝	宗教教義、及び儀礼、宗教文化について、「宗教としてのイスラム」及び「中東の歴史文化」を中心に進める。
	62	ラテンアメリカを知る	金1・2	杓谷 茂樹	ラテンアメリカ社会と歴史を地域別に、その多様性を浮き彫りにし、政治・経済・文化面にわたって概説する。
	63	北米を知るB	金3・4	河内 信幸	アメリカの社会と文化を第二次世界大戦の前と後に大きく二つに分け、その特徴を考察。第一次大戦を経て大国になったアメリカ、また大衆文化と大量消費のアメリカの矛盾など。
	64	世界史概論	水5・6	河内 信幸	ヨーロッパ近代・現代の国家形成の流れを追い、多くの国々の歴史に政治・経済・文化などが複雑に関連していること、その変化の背後にどのようなモメントがはたらいているのが見る眼を養う。
65	地誌B	水3・4	原 真一	地域を構成する多様な複雑な諸要素との係わりとその全体像(地域性)を探究し、地誌学の見方・方法などを涵養し習得する。	
66	音韻論	金7・8	野田 恵剛	音素、音韻論的対立、相補分布、母音調和などの概念を理解し、音韻論的な考え方を理解する。	
67	社会言語学	火5・6	山田 伸明	多言語社会の問題点、社会階層、性差などによる言語の差異、裁判と言語、日本と米国の英語公用語化、在日外国人に対する言語政策など。	

このガイドは2010年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、必ずエクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学ホームページのシラバスをご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	コード	科目名	曜日・時限	担当者	ガイド
国際関係・異文化・宗教	68	フィールドワーク論	火7・8	和崎 春日	文化人類学は、比較文化の学。私たちが住んでいる産業発展した「北側」社会ではない社会から学び、比較する。そのために、文化人類学は、他(異)文化をフィールドワークする。主にアフリカ社会のフィールドワーク体験を中心に、比較文化をめぐる実践と考え方・理論を説明する。
	69	社会調査法	水5・6	U.メーワルト	本講義は、実証的・経験的な社会調査の方法の入門。研究に直面するデータの使い方関連の諸問題への具体的なアプローチを学ぶ。社会調査の様々なタイプの紹介、調査の実施、データの分析と解釈、データ入手等を具体的に説明する。
	70	資料リサーチ法	水1・2	河内 信幸	専門演習と卒業論文の作成につながる文献・資料の検索、リサーチの方法を具体的に学び、専門的な学びの技法を修得する。
	71	西洋思想史	金5・6	小野木 芳伸	西洋の哲学者を題材にして、西洋思想の歴史を概観することで欧米文化を理解し、ひいては日本文化を理解する。
	72	人文地理学	木1・2	渡邊 欣雄	文化人類学の影響を色濃く受けた文化地理学と、その成果の一つとしての風水地理学について講ずる。
	73	文化人類学特殊講義	木3・4	和崎 春日	アフリカ社会を中心に、他文化の行動様式や価値意識にある「科学性」の発見から、私たちの行動が「正しい」のか「これで足りる」のかを問う。また、日本や日米欧など「北側」社会の「南側」社会へのかかわり方、南北をめぐる「開発」、援助、協力、外交、NGOのあり方など。
	74	現代社会特殊講義	火5・6	和崎 春日	「安易」な都市的文化や消費文化や情報文化や「お金」文化なかで、自文化の行動様式や価値意識・慣行をいかに活かして、「地球や地域を生きる」工夫をとともに学んでいくかということについて。
	75	中国語研究B	木7・8	伊藤 正晃	中国語学を専門的に研究するために必要な音声、統語、語彙・意味の各分野における諸現象及びその理論について詳説する。
	76	中国国際関係研究	火5・6	曾 文彬	19世紀半ばの中、英アヘン戦争を始め、欧米列強の中国分割、中日甲午戦争、抗日戦争などを講義し、中国と諸外国との関係およびその教訓を分析する。
	77	中国経営論	火3・4	舩山 誠一	中国政治経済社会文化と中国における企業経営との関係について理解する。
78	中国文学研究	水1・2	和田 知久	三千年に及ぶ歴史を持つ中国の文学を包括的に学ぶ。前半は古典文学。後半は現代文学について。併せて中国語の原文や日本語の翻訳を用いて実際に作品を講読する。	

日本語・日本文化	79	日本語講義B	月5・6	堀江 裕子	我々の持つ認知能力を意味の基盤とし、具体例に基づき、語(多義語・類義語)や慣用句などの意味について考察、日本語の持つ個性性と普遍性など。
	80	日本語教授法B	水3・4	堀江 裕子	日本語を母語としない人に「外国語として日本語を教える」とはどういうことなのかを学び、日本語教授法の実践的な技能を習得する。
	81	日本語研究史	木1・2	蜂矢 真郷	日本語についての研究の歴史について学ぶことにより、日本語の様々な状況を知ることを目指す。
	82	古典文学講読B	火3・4	岡本 聡	蕪村の連句を講読していく。「菜の花や月は東に日は西に」や「牡丹散りて打かさなりぬ二三片」などを発句とした連句を講読していく事により、日本文学における連句という形式を理解する。
	83	近現代文学講読B	木3・4	愛知 峰子	樋口一葉の文学を取り上げる。小説、日記などを読み進め、文体、文脈、テーマなどについて理解を深める。単に知識を得るだけでなく、蓄積した知識をもとにじっくりと自らの考えを發展させる。
	84	民間伝承論B	水1・2	越川 次郎	近・現代の衛生思想と民間医療について、民俗学の視点から検討する。前半は、西洋近代医学の導入と衛生思想の浸透について、漢方と売薬の事例。後半は、コレラと結核を取り上げ、これらの治療について検討。最後に現代の医療に関して代替医療の問題を考察。
	85	伝統芸能論	木7・8	嘉原 優子	アジア各地に伝えられた伝統芸能、日本の伝統芸能を中心にそれぞれの地域文化との関係、それらが内包する諸要素の類似性や異質性、伝統的要素と現代的変容など。
	86	日本の文化B	木5・6	大山 誠一	日本列島は、東日本と西日本というように東西の違いが強調されるが、東西という地域概念が成立した根拠と意味を考え、そのことが日本の歴史にどのような役割を果たしたかを考える。

このガイドは2010年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、必ずエクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学ホームページのシラバスをご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	コード	科目名	曜日・時限	担当者	ガイド
英語・英米文化	87	英語の発音B	火7・8	ヤーッコラ 伊勢井敏子	語彙レベルから、句、文レベルまでの発音現象を知り、日本語音を分析的に理解し、英語音との違いを認識する。
	88		木7・8		
	89	英米の文学B	月5・6	島津 信子	アメリカの代表的な文学作品に触れ、アメリカ文学を通して各時代のアメリカ文化について考察する。映画と原作の抜粋の読解を通して、鑑賞と分析にあたる。
	90	英米の歴史B	金7・8	本内 直樹	英米諸国を中心とした資本主義経済の歩みと社会変化を振り返り、英米経済の発展・停滞・再生といった諸局面が、世界規模にわたって社会構造や人々の日常性にどのような影響をもたらしてきたのかについての理解を深める。
	91	英語学特講B	火3・4	ヤーッコラ 伊勢井敏子	様々な英語音声の現象についての理解、音声教育に役立つ知識も学習することで、リスニング向上を目指す。音声分析ソフトを使用。
	92	英米文化特講B	木5・6	島津 信子	映画を教材として使い、1960年代の公民権運動から現在にいたるまでのアメリカ社会の主な出来事をたどりながら、さまざまな文化や価値観の移り変わりに関して理解する。
	93	応用言語学入門B	火3・4	松原 勝子	言語に関連する様々な分野の研究やトピックスに親しみ、知識を今後の外国語習得に役立てる。
	94	日・欧・米比較文化論B	金3・4	本内 直樹	人・モノ・情報の国境を越えた移動＝グローバル化現象に伴う日常生活・風景・行動様式や価値観の変化といったものについて日本・アメリカ・ヨーロッパ諸国において比較検討し、「文化」の画一化・多様化の諸相を個別具体的事例から理解していく。
	95	スペシャルトピックスB	木3・4	C. N. サンディ	The purpose of this course is to read about, discuss, and do research into the various issues surrounding the history of language education in the 20th century.
	96	ディスカッションB	月3・4	M. スミス	Students will be presented with vocabulary and discussion topic and strategies as a whole class and discuss the given topics with clearly defined goals and outcomes.
97	異文化コミュニケーション論B	月5・6	塩澤 正	異文化間コミュニケーションに関する「知識」を増やし、文化相対主義にもとづく非差別的な「態度」を身に付け、積極的に異文化を持つ人間と「行動」するための、基礎能力を養成する。	
98	英語のしくみB	月5・6	槇田 裕加	不定詞節や動名詞節など特定の構文をとりあげ、これらの構文がどのような規則に従っているのかを考察していく。さらに、日本語と比較をすることで、英語がどのような構造を成す言語なのかを議論していく。講義形式は少なく、プリントによるテストとその採点を中心とする。	

コミュニケーション・メディア・ジャーナリズム	99	音響表現	木5・6	宇佐美 理	リアルタイム音響合成のためプログラミング環境SuperColliderを使って、オブジェクト指向プログラミング言語の基本的な文法を習得し、音響合成の古典的な技法について。PC利用。
	100	現代文化史B	木5・6	前田 富士男	20世紀半ばから現在にいたるさまざまな問題を考察し、建築や絵画、映像、デザインなど一点の作品を取り上げ、それを手がかりに文化の問題を考察する。
	101	社会学B	月7・8	都築 耕生	戦後の混乱期から始まり、経済高度成長を経て、石油危機、安定成長、バブルの崩壊を経て現代にいたるまでの日本社会の変化を中心に学習し、現代社会の変貌と私たち自身の生活の関係について理解を深める。
	102	心理学B	火3・4	西野 泰代	社会的行動や心の病理の理解など、人間の心についての応用的な知識を習得する。特に社会心理学、発達心理学、臨床心理学を柱として構成し、健康心理学などの知見も織り交ぜながら講義を行なう。
	103	言語コミュニケーションB	火7・8	平本 毅	実際の会話データの分析から会話の社会的秩序を成り立たせている種々の技法や手続きを明らかにする「会話分析」と呼ばれる研究手法の基礎など。
	104	コミュニケーション論B	金3・4	松本 健太郎	記号学の考え方を援用しながら、各種メディアによって媒介されるコミュニケーションのメカニズムを理解し、「メディアが形成するリアリティ」や「監視社会の構造」などのテーマを設定し、現代的なコミュニケーションの実相にアプローチする。春学期の「コミュニケーション論A」と連続をなす。
	105	メディアと歴史B	木7・8	和田 伸一郎	メディア環境の変貌を踏まえつつ、事件をどのように知り、どのように見て、どのように理解すればいいのかを学ぶ。
	106	記号修辞論	月1・2	伊東 豊	修辞の本来の目的は、自分の考えを正確に、かつ説得的に発表する技術である。そうした面に重点をおき、修辞学の歴史や具体的な技術について理解する。
	107	音響分析A	水3・4	福田 裕大	20世紀初頭から現在にいたるまでの各国ポピュラー音楽の歩みを辿り、ポピュラー音楽の歴史の俯瞰的ヴィジョンを獲得することを目指すものです。音楽作品の紹介だけでなく、その作品の作り手や聴き手のバック・グラウンドを紹介する。
	108	音響分析B	水5・6	福田 裕大	音楽創造・受容がなされる際の技術・メディアの役割に注目し、そこからポピュラー音楽の歴史を辿りなおす。1877年の蓄音機の誕生から現代のデジタル・メディア環境にいたるまでのさまざまなトピックを取りあげる。

このガイドは2010年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、必ずエクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学ホームページのシラバスをご参照ください。より詳細な授業計画をご覧いただけます。

分野	コード	科目名	曜日・時限	担当者	ガイド
コミュニケーション・メディア・ジャーナリズム	109	比較文化論B	金7・8	宮下 十有	現在のグローバル化、デジタル化、ネットワーク化など大きく変化する時代の中で、文化に関する状況はどのように変化しているのか、さまざまな事情、条件のもとで異なる文化を持つ人々が会おう時、何が起きているのかを考察する。映像作品製作あり。
	110	メディア産業論B	月3・4	磯野 正典 河合 誠 大西 ルナ	前半ではメディア産業全般の現状を俯瞰し、後半では、特に変革の著しいテレビ産業に注目、産業構想の変化や基幹メディアとしての役割との関連性などを具体的事例により考察する。
	111	表現と倫理B	月3・4	藤枝 律子	表現の自由とそれを制約するものや、プライバシーや著作権の侵害等の現状とそれに対する救済について、事例を挙げて検討し、表現の自由をめぐる法と倫理に関する知識と理解を深める。
	112	政治とコミュニケーション	水3・4	栗木 千恵子	わが国の政治の仕組み・機能を理解し、現在問題となっている事柄について自分自身の意見を持ち、それをどのように伝えればよいかを立案できる力をつける。
	113	メディア・テクノロジー	月7・8	和田 伸一郎	メディア・テクノロジーに限定せず、テクノロジー全般が、近代の産業革命以降、世界、人間、文化をどのように変えてきたかというものを考える。
	114	ニュース記事・編集	月1・2	水野 雅夫	新聞記事(小論文)を書く実習的な授業とし、就職活動に必要な小論文作成や社会人になって必要な文章作成技術習得など。
	115	新聞研究B	水5・6	水野 雅夫	春学期の「新聞研究A」の後編として日々の新聞紙面を教材に、その新聞の意義と読み解き方を学ぶ。また、メディアリテラシーを身につける機会にする。
	116	テレビ放送研究B	木3・4	齋藤 宏保	ニュースやドキュメンタリーなどテレビの報道番組は、どう作られているのか、どんなメッセージが込められているのか、誰に対して何を言おうとしたのか、取材・制作にはどんな問題があったのかを検証し、テレビの報道番組はどう作られているのかを理解する。
	117	社会の心理	水3・4	山本 明	社会心理学が扱うさまざまな問題について具体的な例を挙げながら、コミュニケーション行動に焦点を当て、それらの背後にある社会心理的要因を探る。
	118	メディアとことば	木7・8	柳谷 啓子	各種メディアとことばが相互にどのように作用しながら、現代社会のコミュニケーションを成立させ、私たちの現実認識を作り上げているのか、またメディア環境の変化が、表現様式や言語自体、言語行動や人間関係のあり方などにどのような変化をもたらしているかを考える。
	119	企業とコミュニケーション	火7・8	大野 貴司	企業活動に重要な影響を及ぼすステークホルダーといかなる関係性を形成すべきか、ひいては社会において自社をどう位置づけていくかという課題を、コミュニケーションという視点から論じる。
	120	医療・障害者とコミュニケーション	金5・6	平田 亜紀	自分自身の健康について考え、障害をもつということはどういうことか、超高齢社会を生きるとはどういうことか等について基本的な知識を学んだ上で、医療現場におけるコミュニケーションについて考える。講師変更のため、内容変更の可能性あり。
121	映画史B	金5・6	小林 貞弘	映画史を線動的にイメージしやすいものとして提示するとともに、各年代の社会情勢・時代状況について考察する。1950年代から80年代までをカバーする。	
122	映画研究B	木5・6	小川 順子	映画の中でマイノリティがどのように表象されてきたのかを考察し、時代背景と照らし合わせつつ、マイノリティの描かれ方から社会的・文化的価値観を分析する。	
心理	123	健康心理学A	金5・6	小川 浩	喫煙、飲酒、睡眠といった生活行動習慣を取り上げて、その健康影響、心理的メカニズム、対処・対策、関連社会環境などを概説するとともに、「養生訓」を引用して日本古来の健康観や健康法を紹介する。
	124	学校心理学A	木3・4	西口 利文	児童・生徒の心理的、教育的支援に密接に関わる重要な概念、また、それぞれの概念や事項と、心理学の各分野などとの関連性などについて。
	125	社会心理学A	月3・4	高比良 美詠子	「人がどのように自分や他者のことを認識しているか」という問題に焦点を当てながら、自分や他者が普段行っている行動を科学的に研究することの意義や面白さについて考える。
	126	社会心理学B	火3・4	高比良 美詠子	「人はどのように他者とコミュニケーションをとるか」という問題を中心に、人が社会的動物とよばれることの意味について考える。
	127	心理学史	木3・4	松井 孝雄	個々の心理学分野ごとに通史を学び、縦のつながりを理解し、広い範囲の心理学研究を時代ごとに概観し、横のつながりを理解する。
	128	臨床心理学B	火3・4	願興寺 礼子	主な心理療法の学派を紹介し、それぞれの立場に共通する心理療法の基本ルールやプロセスについて解説する。

このガイドは2010年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、必ずエクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学ホームページのシラバスをご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	コード	科目名	曜日・時限	担当者	ガイド
歴史 ・ 地理	129	歴史学の方法B	火7・8	小林 博行 丸谷 晃一 三浦 陽一	三人の教員が(五回ずつのオムニバス方式)それぞれの専門分野(漢文系列の文献 丸谷・候文で書かれた文献 小林・外交文書 三浦)の史料を取り上げ、その読解を行う。
	130	現代日本の地域性	木3・4	大塚 俊幸	現代日本の都市地域や中山間地域で起きているさまざまな地域問題を取り上げ、その内容および背景について具体的な事例を用いて講義を行う。
	131	日本とアジアB(歴史)	金3・4	趙 寛子 一谷 和郎	19世紀半ば以降の近代を対象とした、前半は主に中国と日本の関係、後半は日本と朝鮮・韓国の関係を中心に、アジアの歴史に関する基礎知識を学習する。前半は一谷和郎先生、後半は趙寛子先生が担当する。
	132	アジアの歴史B	木1・2	趙 寛子	1980年代までの東アジアの冷戦史を朝鮮半島の事情を中心に学び、現代韓国の文化・歴史認識の状況について理解する。
	133	アジアの歴史C	水3・4	一谷 和郎	中華人民共和国は、清朝末期ないし中華民国の時期に形成された政治や社会の構造と密接な関わりをもっている。このような基本的な歴史事実を知り、歴史学的な考え方から、現代中国を理解する。
	134	アメリカの歴史	金5・6	柳澤 幾美	アメリカの歴史を学ぶことによって、世界に君臨しているアメリカの姿を理解する。白人男性中心のアメリカ史ではなく、これまで軽視されたり切り捨てられてきたような少数民族集団、社会集団などの「マイノリティ」や女性も充分組み込んだ歴史解釈など。
	135	ヨーロッパの歴史B	火5・6	小島 亮	「ヨーロッパの歴史A」の主旨を継承する。ただし中央ヨーロッパ、東ヨーロッパ、ロシアなど「東」の位置に視点を移動させる。
	136	技術の歴史	金7・8	小林 博行	印刷がどのようにして人々の生活や思考を変えたか、とくにそれがいかにして17世紀の「科学革命」につながったかについて考察する。PC利用。
	137	郷土の歴史	水5・6	勝亦 貴之	岐阜県可児市域を中心とし、春日井市域とも比較しながら東海地域の近世史の一端を明らかにし、歴史学を研究するために必要な基礎的知識・方法を身につける。
	138	地理学特殊講義B	木1・2	渡部 展也	GISでよく用いられる各種分析手法の習得を目的とし、後半には、与えられたデータを基に、前半で習得した分析手法を用いて、自分なりの分析を行ってもらい、基本的に実践的な作業を中心として授業を行う。
	139	地理学特殊講義D	火5・6	合田 昭二	「工業の集積」「工業大企業の立地」「商業・サービス業の経済空間」「国際関係」の四分野における産業活動の具体的実態を、経済地理学の視点から考察する。実態呈示の図表資料を多く活用しつつ講義を進める。
	140	歴史学特殊講義C	水1・2	篠宮 雄二	「日本近世生業試論(1)」というテーマで講義を行い、日本の近世社会における人々の営みの一つである生業(稼業)に着目し、人々がその地域で生きていくための試みとその問題点を解明することを通じて、地域社会論を再構成する。
	141	歴史学特殊講義D	火1・2	鷲見 洋一	「フランスの文化と歴史」をテーマに、ユーラシア大陸の西端にあって、東西南北さまざまな地域や文明の交点で交通の要衝としての役割を果たしてきたフランスについて考察する。
	142	地域と都市	木3・4	林 上	都市を中心として行われている経済活動に焦点を当て、経済がどのように成長していくのか、労働力、技術、環境などをキーワードとして考える。
	143	地域と経済	火7・8	合田 昭二	農業・工業・流通の3分野に関する空間システムをいくつかの角度から取り上げる。理解しやすい題材を用いて、空間的着眼点とはいかなるものか、の実感をともなった理解をめざす。
	144	地域と環境	火9・10	宮岡 邦任	地形図を使用しながら、自然地理学の諸現象について地形学、気候・気象学・水文学などの基礎的な内容を網羅しながら解説していく。併せて、自然地理学的な情報が地形図からどのように得られるかを「地域と環境」の視点から説明していく。
145	日本地誌	金7・8	北田 晃司	日本のさまざまな都市およびその背景にある文化、歴史、経済、風土などについて旅行者に近い視点から具体的に検討する。	
146	世界地誌	月5・6	末田 智樹	世界の諸地域と日本との関係性を考える。また、現代社会の中で積極的に活動するうえで、世界の見方を勉強する。	

このガイドは2010年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、必ずエクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学ホームページのシラバスをご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	コード	科目名	曜日・時限	担当者	ガイド
哲学	147	哲学の世界	月1・2	大滝 朝春	西洋思想の根幹の形成とその展開、変貌の歴史である西洋哲学史を学び、自分自身の思惟活動を改めて確認する視座を得る。
	148	論理の世界	火5・6	大滝 朝春	論理的整合性を体系的に追求し、論理の妥当性と非妥当性を、単に直感によってでなく、論理的に判定出来るようにする。
バイオ・環境・食品	149	環境動物学	月3・4	須藤 千春	無脊椎動物が長い進化の過程で獲得してきた生活、生存戦略を、その仕組みと生物学的な意義、脱皮・変態や休眠・飛翔、共生・寄生などの昆虫が特に発達させている生理現象について、その分子機構やホルモン制御を含めて理解する。
	150		水3・4		
	151	機器分析化学	木5・6	山本 敦	分析機器の基本原理を理解することで、正しい操作法を習得し、正確なデータ解析ができるようにする。
	152	食品科学概論	水5・6	和田 俊夫 柘植 治人	食品の主な構成成分、おいしさに関わる要素、加工における成分変化、食事と健康の関わり、安全性の確保、関連法規や表示制度などについて概略的な知識を修得する。
	153	生物環境調節学	水5・6	寺井 久慈	自然環境に対する生物の基本的な応答、生物生産のために行なわれている環境調節や生産物の貯蔵、鮮度保持のために取り組まれている環境調節など。
	154	微生物学	水5・6	倉根 隆一郎	微小生物がどのように研究され、人類との関わりでどのように理解されてきたかについて、また未知の可能性などを考える。
	155		火1・2	荒井 基夫	
	156		火3・4		
157	理論生物学	木7・8	関村 利朗	生物現象を数理的手法によって理解する理論生物学の考え方・解析方法を、色々な例を挙げて解説する。	
生命・医療・看護	158	生と死の文化人類学	木5・6	小林 邦彦 石井賀洋子	医療施設でのフィールドワーク(死体解剖を含む)で得られた現代医療における生と死に関するさまざまな現象を、文化人類学的視点から紹介し、「生と死」について向き合い、健康の意味について考える。
	159		木7・8		
	160	微生物学	木1・2	伊藤 康彦 伊藤 守弘	微生物の形態、生化学的性状、増殖機構や宿主 - 微生物の相互関係等の微生物学総論と個々の細菌やウイルス学の諸性質を学ぶ微生物各論、人類と微生物との戦いと共存の歴史、消毒法や滅菌法の原理、院内感染、新興感染症や再興感染症の実態など。
	161	公衆衛生学	水1・2	城 憲秀	健康事象の因果関係や疫学・統計手法などの基本的な事項、法令や組織などの社会的な健康増進サポートシステム、公衆衛生的観点に基づく社会的な健康問題へのアプローチ手法について。
	162	生命倫理学 (前半8回)	木5・6	佐藤 芳	生命倫理学は、人間の生命に関する慣習をあつちやうな学問であるが、現在ではこの生命に関する価値観は、医療の高度化に伴い再考や変更を迫られている。それゆえ、この授業では、生命に関する現在の価値観だけではなく、これからの価値観を作っていくことも目的とする。
	163		木7・8		
教育	164	教育方法学	金3・4	豊田 ひさき	教師と子どもの間で行われてきた「教える 学ぶ」の関係を教育現場の実践をあげながら歴史的に概観、また小学校の学習指導要領の内容をすべての子どもに定着させると同時に子ども一人ひとりの個性を伸ばすことを目指した教育方法の基礎的知識と、ノウハウを修得する。
	165	発達心理学	火7・8	武藤 久枝	新生児期から老年期までの生涯発達の見点にたつて乳幼児期の発達を理解する。
芸術	166	美術の思想と表現	水5・6	千葉 成夫	ルネサンスを西欧近代絵画の始まりととらえ、その「始まり」の諸相を、カラヴァッジオ フェルメール ゴヤの3人の代表画家を通して考える。
	167		木1・2	福山 泰子	お寺で目にする仏像がどこからやってきたのか、日本の仏教美術の起源を南アジアに探る。東洋美術のなかでも南アジアの美術を中心にローマ世界や西アジアの影響、さらに東アジアへの伝播の様相も含めつつ、宗教美術の諸相を見てゆく。
	168	音楽の表現と歴史	金3・4	鶴田 正道	「モーツァルトの生涯と謎のオペラ」をテーマに映画 アマデウス や、彼の最後のオペラ 魔笛 を鑑賞しながら、モーツァルトの 歌劇の謎・面白さの秘密に迫る。また、「磨かれた感性による大学生活の充実」を目的とする。